

手外科・マイクロサージャリー

HAND SURGERY & MICROSURGERY

担当医 菅沼 省吾／島貫 景都

「手外科」は、肘から手指までの上肢に生じる病気やけがを専門に診療する、整形外科の一分野です。この領域には、骨・関節、靱帯、腱、神経、血管などの重要な組織が狭い範囲に集中しており、診断から治療、機能再建まで高度で専門的な技術が求められます。

海外では、整形外科とは別に「手外科（Hand Surgery）」が独立した診療科として設けられている国や地域もあります。当院は、北陸地方では数少ない日本手外科学会認定基幹研修施設に指定されており、手外科専門医 2 名体制で年間 400 件以上の手術を行っています。

認定基幹研修施設

日本手外科学会

専門医 2 名

手外科専門医による診療

年間 400 件以上

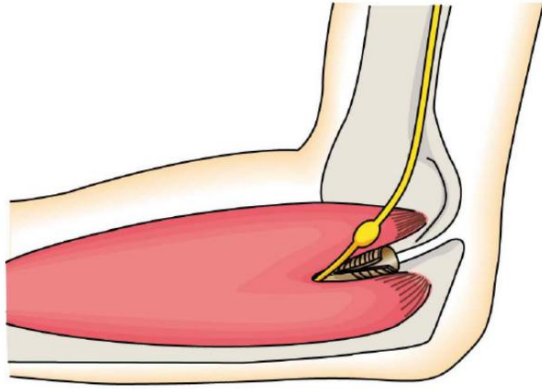
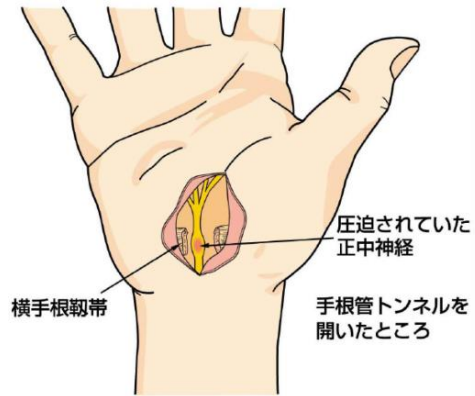
手術件数

当科では、胸郭出口症候群および手の先天異常は診療対象としておりません。受診の際はあらかじめご了承ください。

1

絞扼性神経障害

手のしびれを引き起こす代表的な病気に、手根管症候群と肘部管症候群があります。手根管症候群では主に親指から薬指にかけて、肘部管症候群では主に薬指と小指にしびれが生じます。しびれが強い場合や筋力低下を認める場合には、症状や検査所見に応じて手術を検討します。特に肘部管症候群は進行すると筋萎縮や手指の細かな動作の障害を生じることがあるため、適切な時期に治療を行うことが重要です。

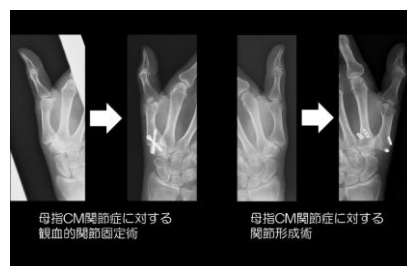
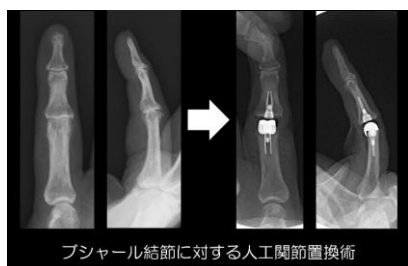


日本手外科学会「手外科シリーズ」より転載

2

変形性関節症

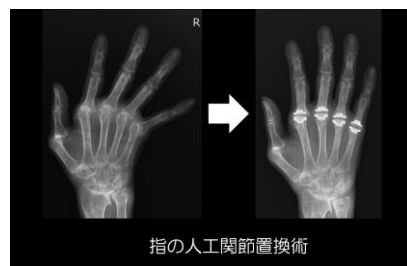
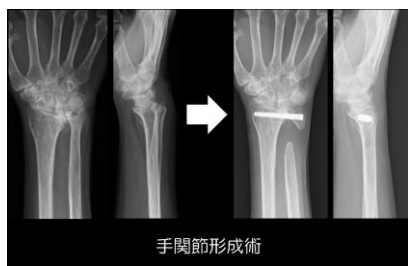
変形性関節症は、関節軟骨がすり減ることによって、痛みや腫れ、変形を生じる病気です。指の第1関節（DIP関節）に生じるものを「ヘバーデン結節」、第2関節（PIP関節）に生じるものを「ブシャール結節」、親指のつけ根の関節に生じるものを「母指CM関節症」と呼びます。とくに親指は、他の指と協調して「つまむ」動作を行うため、母指CM関節症は日常生活に大きな影響を及ぼすことがあります。軽症では薬物療法、注射、装具療法などの保存療法を行い、強い痛みや変形がある場合には手術を検討します。



3

関節リウマチ

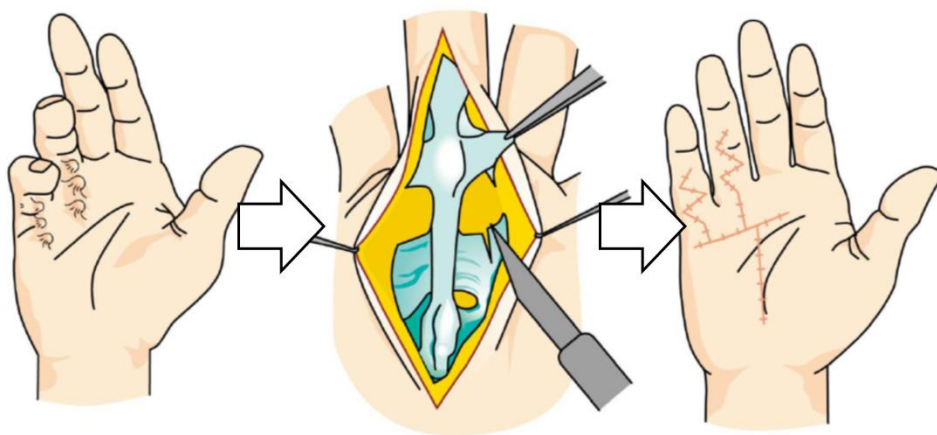
関節リウマチが進行すると、手指や手関節、肘関節に痛みや変形が生じ、上肢の機能が障害されることがあります。当科では、痛みや変形、機能障害の種類と程度を評価し、患者さん一人ひとりの状態に応じて、関節形成術や人工関節置換術など、機能再建を目的とした手術を行っています。



4

デュピュイトラン拘縮

デュピュイトラン拘縮は、手のひらから指にかけて皮下の組織が硬くなり、指が徐々に伸ばしにくくなる病気です。原因は明らかではありませんが、欧米、特に北欧に多いことから「バイキング病」と呼ばれることもあります。指の伸展制限によって日常生活に支障が生じる場合には、手術を検討します。



日本手外科学会「手外科シリーズ」より転載

5

肘関節疾患

変形性肘関節症や上腕骨内側上顆炎・外側上顆炎などの肘関節疾患も、手外科の診療対象です。当科では、痛み、変形、可動域制限などの症状や機能障害の程度に応じて、さまざまな手術を行っています。なお、野球肘の診療はスポーツ整形外科が担当しています。



6

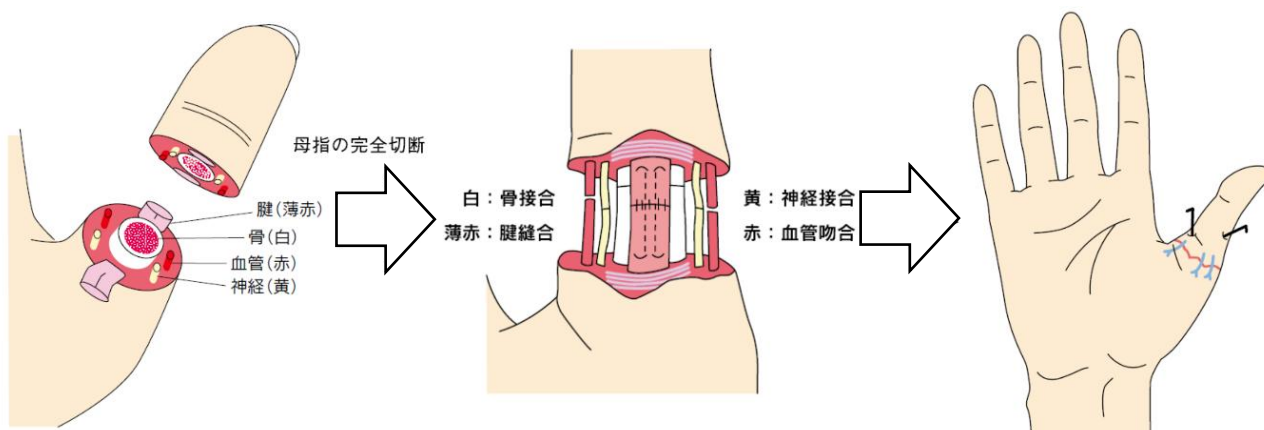
マイクロサージャリー

マイクロサージャリー（顕微鏡下手術）は、手外科や重度四肢外傷の治療に欠かせない技術の一つです。手術用顕微鏡を用いて神経や血管を精密に修復するほか、軟部組織欠損に対する組織移植にも応用されます。直径 0.5～数 mm 程度の微小な血管を吻合することもあり、高度な技術と経験が求められます。

神経・血管の修復 外傷などで損傷した神経や血管を、手術用顕微鏡のもとで精密に修復します。

切断指の再接着 切断された指に対して、骨・腱・神経の修復とともに血管を修復し、再接着を行います。

組織移植による再建 皮膚や軟部組織の欠損に対して、遊離組織移植などを用いて機能再建を行います。



日本手外科学会「手外科シリーズ」より転載

専門性の高い手外科診療とマイクロサージャリーで、上肢の機能再建を支えます。